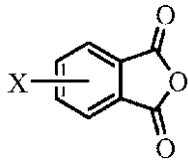


【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第3区分
 【発行日】令和2年3月12日(2020.3.12)

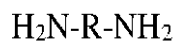
【公表番号】特表2020-503418(P2020-503418A)
 【公表日】令和2年1月30日(2020.1.30)
 【年通号数】公開・登録公報2020-004
 【出願番号】特願2019-535853(P2019-535853)
 【国際特許分類】
 C 0 8 G 73/10 (2006.01)
 【F I】
 C 0 8 G 73/10

【手続補正書】
 【提出日】令和2年1月7日(2020.1.7)
 【手続補正1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項1】
 下記式：
 【化1】



の置換無水フタル酸と、下記式：

【化2】



のジアミンとを、反応中の無水物官能基の合計モルに対して10～50モル%の量の芳香族二無水物、および任意選択的に連鎖停止剤の存在下で反応させるステップを含み；

反応性中間体組成物を生成するのに有効な条件下で、反応器内で、非プロトン性溶媒中で反応を実施し；

上記式中、Xは、ハロゲンまたはニトロ基を含み、

Rは、C₆-₂₀芳香族炭化水素基もしくはそのハロゲン化誘導体、直鎖もしくは分岐鎖C₂-₂₀アルキレンもしくはそのハロゲン化誘導体、またはC₃-₈シクロアルキレンもしくはそのハロゲン化誘導体を含むことを特徴とする反応性中間体組成物の製造方法。

【請求項2】

相間移動触媒の存在下で、

モノ無水物、モノアミン、またはモノ官能化フタルイミド連鎖停止剤の存在下で、

少なくとも110°の温度で、

最大310 k P aの圧力下で反応させる請求項1に記載の反応性中間体組成物の製造方法。

【請求項3】

中間体組成物の成分が、前記芳香族二無水物がないこと以外は同じ条件の下で実施した同じ反応によって得られた中間体組成物の成分よりも少なく反応器の壁に付着する請求項

1に記載の反応性中間体組成物の製造方法。

【請求項4】

180 での中間体反応組成物の成分の溶解度が、前記芳香族二無水物が無いこと以外は同じ条件下で実施される同じ反応によって得られる中間体組成物の成分の180 での溶解度を超える請求項 1 または 2 に記載の反応性中間体組成物の製造方法。

【請求項5】

中間体反応組成物の180 での固形分の質量%が、前記芳香族二無水物が無いこと以外は同じ条件下で実施される同じ反応によって得られる中間体組成物の180 での固形分の質量%より多い請求項 1 または 2 に記載の反応性中間体組成物の製造方法。

【請求項6】

前記芳香族二無水物の量が、無水物官能基の合計モルに対して10～35モル%であり、
好ましくは、前記芳香族二無水物の量が、無水物官能基の合計モルに対して20～30モル%である請求項 1 または 2 に記載の反応性中間体組成物の製造方法。

【請求項7】

反応性中間体の存在量が、反応質量の合計質量に対して15～40質量%固形分であり、
好ましくは、反応性中間体の存在量が、反応成分の合計質量に対して25～40質量%固形分である請求項 1 または 2 に記載の反応性中間体組成物の製造方法。

【請求項8】

前記置換無水フタル酸が4-クロロフタル酸無水物を含み、
前記ジアミンが、m-フェニレンジアミン、p-フェニレンジアミン、4,4'-ジアミノジフェニルスルホン、3,4'-ジアミノジフェニルスルホン、3,3'-ジアミノジフェニルスルホン、またはこれらの少なくとも1つを含む組み合わせであり；
前記芳香族二無水物がビスフェノールA二無水物である請求項 1 または 2 に記載の反応性中間体組成物の製造方法。

【請求項9】

前記置換無水フタル酸が3-クロロフタル酸無水物を含み、
前記ジアミンが、m-フェニレンジアミン、4,4'-ジアミノジフェニルスルホン、またはこれらの少なくとも1つを含む組み合わせであり；
前記芳香族二無水物がビスフェノールA二無水物である請求項 1 または 2 に記載の反応性中間体組成物の製造方法。

【請求項10】

請求項 1～9のいずれか 1項に記載の方法によって得られた反応性中間体組成物と、ジヒドロキシ芳香族化合物のアルカリ金属塩とを、非プロトン性溶媒と相間移動触媒とを含む重合混合物中で、ポリエーテルイミドの製造に有効な条件下で反応させるステップを含むことを特徴とするポリエーテルイミドの製造方法。